北陸・信越版

新潟支局　〒950-0087 新潟市中央区東大通2－2－12　電話・025(246)3834　FAX・025(246)3967
富山支局　〒930-0072 富山市桃井町2－4－21　電話・076(421)1782　FAX・076(421)1785

近藤與助工業

近藤與助工業（本社・三条市、社長・近藤雄介氏）は今年のテーマに「KAKUYOの総合力向上」を掲げており、建築用鋼材、土木用鋼材・土木資材、建材・オフィスビル用品の商品知識、営業展開を体系的に見直している。これまで取り扱いアイテムは鉄鋼一部（形鋼、厚板、鉄骨等）、鉄鋼二部（土木・鉄筋等）、住設部（薄板建材、OA等）で部署ごとにすみ分けしていたが、横断的にイベントの情報や商品知識の習熟を通じ、商機の拡大を目指す。

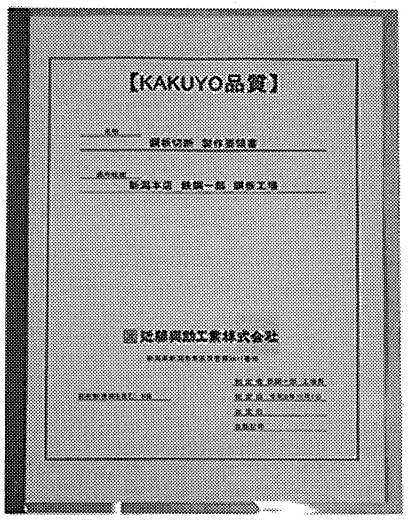
製作要領書「KAKUYO品質」見直し

社内、取引先に製品管理力を明示

その一環で地元で親しまれる屋号「カクヨ」にちなんだ「KAKUYO品質」を見直した。製作から出荷までの工程管理を明示した製作要領書を社内や取引先と共有し「業務内で〝当たり前のこと〟を正確に行う流れを社内で再点検し、品質にこだわる姿勢で価格以外の競争力を改めてお客様に伝えていきたい」と涌井豊取締役鉄鋼統括部長は話す。

手始めに「鋼板切断」の製作要領書をまとめた。寸法入力、切断後の確認や荷造り、現品票の貼付等、工程ごとの約束事を文書化した。それによって日々の業務管理の徹底だけではなく、課題が具体化し、相談や改善提案を行う際に役立つ。

誰がどの部分を担当し、どのような改良を行うべきか、どのような表現で営業先や現場スタッフと話し合うか、焦点がクリアになることで今後の信頼性向上に寄与する。



工程管理を明示した「KAKUYO品質」製作要領書

部署横断で情報共有、総合力向上へ

今後はコラムを中心とした形鋼類の要領書を製作していく。編集を担当した渡辺済鉄鋼一部次長兼工場長は「工場の職長と相談し、内容を詰めた。社員教育のマニュアルとしても使えるよう考慮した」と話す。

涌井取締役は「営業担当者の得意分野だけに偏ることなく、当社の製品管理の取り組みが全社単位で一元化されていることを改めてお客様に伝えていく。それによって営業から現場作業、事務まで全社で責任感を持ち、最終的に高付加価値、高品質につなげたい」と方針を語る。

富山県鉄鋼会の1月例会

一般鋼材市況「全般に強基調」

富山県鉄鋼会（特約店7社）の企画委員会はこのほど射水市内のテルシーにおいて1月例会を開催し、最近の地区鉄鋼市場の動向について意見交換した。それによると一般鋼材市況は条鋼建材製品から鋼板類、加工製品まで全般に強基調で推移している。

原料高などを背景に生産各社が大幅値上げを打ち出しており、流通段階でも唱え引き上げの動きが強まっているもの。とくに薄中板など鋼板類では、供給事情を要因とする品薄により引き続きナイモノ高の状態が続いている。

今年は年明けの商い再開となった矢先、8日から県内は記録的な大雪に見舞われた。特約店各社では自社、客先、現場とも除雪に追われ、道路状況の悪化による渋滞で配送が滞るなど商売に大きな影響が及んだ。もともと1～2月は冬場環境で仕事が少なく、足元の荷動きは例年に輪をかけて厳しい状況となっている。

今後の需要回復に期待したいところだが、県内では公共土木はコンスタントに出件しているものの民間物件は低調。設備投資の計画延期や見送りがあり、新型コロナの感染再拡大もあって先行き不透明感が拭えず、厳しい環境が続く見通し。

価格的には昨年末からメーカーが大幅値上げを実施。足元鉄スクラップが軟化しているものの、値上げ玉の入荷が進む特約店にとって、採算確保に向け段階的にせよ仕入れ値上昇分の転嫁を進めることが喫緊の課題。仕事が薄い中でも、ユーザーに対し丁寧に状況を説明し理解を求めていくことにしている。

新潟県と関東経済産業局

脱炭素へ初の協議会

新潟港のインフラ活用へ

新潟県と関東経済産業局は1月26日、オンライン会議で第1回新潟カーボンニュートラルポートにつながれば一定の鉄鋼需要も期待される。

花角英世知事は「積極的な脱炭素に向けた取り組みを積極的に行いたい。新潟港をカーボンニュートラルポートとして新潟発のイノベーションを起こし、促進協議会を開催した。石油・ガス関連企業や港湾、物流、商社等が参画、水素エネ

協議会の今年度活動は①新潟県カーボンニュートラル産業ビジョンの策定②新潟港のカーボンニュートラルポートモデル創出③社会実証等の取りまとめを目指す。

具体的にイメージさ

の製造施設、バイオマス等再生エネルギー、水素製造施設、運輸・物流の脱炭素化施設（燃料電池大型トラック、水素ステーション等）、輸入のための水素運搬船等＝写真。

第2回は2月7日、

北陸3県の新設住宅着工

16%減、1.6万戸

国土交通省の建築統計によると北陸3県の2020年（1～12月）における新設住宅着工戸数は総数で1万6206戸となり、前年に比べ16・3%減。全国ベースでは81万5340戸で同9・9%減となり、全国を上回る2桁減となった。

北陸3県では08年に2万戸台に達していたが、リーマン・ショック後の09年には1万5千戸台に減少。ここ数年では17年1万8616戸、18年1万8348戸、19年1万9365戸と緩やかに増加していた。

ただ20年は新型コロ

月まで11カ月連続で前年割れが続いた。

20年を県別にみると、富山県は5253戸で前年比14・4%減だった。そのうち持家は3039戸で同9・4%減、貸家は1668戸で同17・0%減、分譲は535戸で同28・1%減。

石川県は6944戸で同15・7%減だった。そのうち持家は3401戸で同9・3%減、貸家は2678戸で同3・1%減、分譲は851戸で同47・2%も減少した。

福井県は4009戸で同19・6%減。そのうち持家は2394戸で同9・4%減、貸家は1240戸で同30・1%減、分譲は363戸で同34・8%減となっている。

北陸3県の20年鉄骨造着工

14%減、108万平方メートル

の2020年（1～12月）における建築着工床面積のうち鉄骨造は108万平方㍍で、前年に比べ14・0%減と2年連続で減少した。

県別にみると富山県は35万1千平方㍍（658棟）となり前年に比べ9・3%減。石川県は48万1千平方㍍（682棟）で同4・6%減。福井県は24万6千平方㍍（547棟）で同32・0%減だった。

鉄筋コンクリート造も3県合計で17万9千平方㍍となり同8・8%減少した。県別では、放送局やホテル、学校等の物件があった富山県は8万2千平方㍍（40棟）で同69・1%増と大きく伸長。これに対し石川県は6万4千平方㍍（33棟）で同36・9%減、福井県は3万3千平方㍍（25棟）で同29・0%減にとどまった。

北陸3県の木造など

09年は290万平方㍍へと激減。近年では17年314万平方㍍、18年348万平方㍍、19年338万平方㍍と徐々に回復していたものの、20年は294万平方㍍へと減少。11年ぶりに300万平方㍍を割り込んだ。

掲示板

▽石川県板金工業組合は、2月21日午後2時より金沢市内の石川県建設総合センターにおいて「第51回通常総会」を開催する。

▽富山県板金工業組合は、2月26日午後2時より富山県市町村会館において「第55回通常総代会」を開催する。

▽福井県板金工業組合は、2月26日午後3時30分より福井市内のアオッサ8階県民ホールにおいて「第58回通常総会」を開催する。

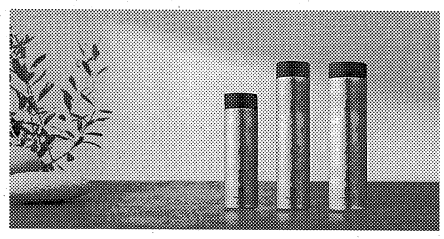
3県いずれも新型コロ

ステンレスボトル新サイズ発売

3日から東京青山でイベント

恒成グループSUS

恒成グループでステンレス、チタン製品の製造販売を手掛けるSUS（本社・燕市、社長・栗田宏氏）はステンレスボトルブランドの「SEVEN SEVEN」でステンレス製耐熱真空ボトル「TSUTSU Tumbler」を展開しており、このほど幾何学的な槌目模様が人気のボロノイシルバーでサイズの拡充を行った。3日から全国販売を開始し、SUS gallery青山本店（東京都港区北青山3－9－7）で3月2日までポップアップキャンペーンを開催している。



これまでの270ミリリットルに加え、新たに360ミリリットル、500ミリリットルを追加。より容量を求めるユーザーのニーズをくんだ。担当者は「難易度の高い表面加工を行っており、こだわりのあるユーザーに手に取ってほしい」と呼びかける。価格は270ミリリットルが7千円、360ミリリットルが7500円、500ミリリットルが8千円（いずれも税別）。直営オンラインストアや全国の有名百貨店、雑貨チェーンに展開する。

鉄リ工業会

鉄スクラップ注目点は「輸入」

日本鉄リサイクル工業会は先月29日、同会ホームページで「2020年の日本の鉄スクラップ輸出について」と題する資料を公表し、今後の鉄スクラップ輸出の注目点に「21年の中国の輸入再開」を挙げた。同国では新たな国家規格『再生鋼鉄原料』が制定され「輸入が徐々に始まっている。輸入は一過との見方もあるが、後の動向が大いに注される」と指摘した。また、韓国の輸出国の転換については「在の見通しでは30年降にネット輸出国になるのでは」とした。

同資料は財務省・易統計をもとに20年

環境

1月の鉄スクラップ国内

「急反落」

日本鉄リサイクル工業会は1月の鉄スクラップ国内市況について「急反落した」とする報告を発表した。昨年12月に急騰した市況「1月から一転して整局面を迎えた」と「とりわけ関東で値げが加速した」こと

19年1～3月、4～6月

鉄スク

鉄源協会

クラップ

4～6月期のシュッダースクラップ出量は10四半期ぶりの年減となる47万5千（対前年5万8千ト減同10・8%減）となった。

地域別に見ると、